



写真:シロオニタケ幼菌 (撮影:平成28年9月9日)

「シロオニタケ」

ツンツン頭の小人さん

夏 休みが終わると昆虫たちは主役から降り、地中で今かとお番を待っていたきのこたちが姿を現します。鮮やかなもの、とても小さいもの、そしてこんなトゲトゲしいきのこまで発生します。近くで見るとまるでツンツン頭の小人さん。時には十数個並んで発生することがあり、その光景はまるで小人の行列。今にも動きだしておしゃべりを始めそうです。成長すると高さ20センチ以上になり、一般的なききの形に傘が開きます。トゲトゲは柔らかいため指でなでると落ちてしまいます。特に理由もなく発生しているように見えるシロオニタケですが、地中で植物の根とくっつき、栄養や水分を供給しあう「共生」の関係にあります。霧島山の植物にはなくてはならない存在であり、人間にとってもそのかわいらしい姿でハイキングの疲れを癒してくれる素敵な存在。霧島山の自然を支える縁の下の力持ち、見かけたら地中での彼らの働きに思いをはせてみてください。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

シロオニタケ *Amanita virgineoides* ハラタケ目 テングタケ科